

「琉球処分」から 140 年 ーウチナーぬ歴史と文化から、 県民投票やちゃーし 見いーゆが？

日 時：2019年 2月 23日 (土) 14~17時 (開場 13:30)

会 場：沖縄県立博物館・美術館 **博物館 講座室** (1階)

参加方法：当日先着 (定員 100名 ※申込不要) 参加費：**500円**

登壇者：**伊佐 眞一**氏 (沖縄近現代史家)

比嘉 豊光氏 (写真家)

屋嘉 宗彦氏 (法政大学 名誉教授)

-来場者からの質疑応答・意見交換-

(※むるしまくとぅばしっ 話しさびーん)

これまで沖縄の近代思想 (伊佐眞一氏)、経済と文化 (屋嘉宗彦氏)、写真 (比嘉豊光氏) について、しまくとぅばで論じてきた鼎談シリーズの7回目。

琉球・沖縄は琉球王国もそうですが、日本本土とはずいぶん違う歴史をもっています。そのなかであって島津の琉球侵略、沖縄戦後の米軍統治時代、そして1972年の施政権返還後の「第二次沖縄県」の時代は、大きな歴史の転換点となっています。しかし、それら以上に大きな変化を沖縄にもたらしたのは、いわゆる「琉球処分」あるいは琉球併合と呼ばれている近代沖縄の始まりです。その節目から今年ちょうど140年目にあたります。

この機会に近代から沖縄の戦後史をへて現在に至る大きな流れのなかで、私たちはいまだどんな問題をかかえているのかを、県民投票をトピックに、しまくとぅばで思考する機会にします。